

—資料—

## 学生の乳児に対するイメージの分析 (1)

— 保育専攻学生における学校別調査を通して —

永 井 久美子

An Analysis Focusing on Students' Images about Infants:  
Investigations at Respective Schools by Students Majoring in Childcare

Kumiko NAGAI

### 要 旨

本研究では、学生の乳児に対するイメージを先行研究の調査項目を基に学生の乳児に対するイメージの実態調査を行う事により、保育専攻学生の乳児イメージの特徴を明らかにする事とした。また、授業改善に生かすために「保育を学ぶ前の乳児のイメージ」と「乳児保育の授業の終盤 (13回目)」の乳児イメージの変化を明らかにすることも目的とした。

キーワード：乳児, イメージ, 保育専攻学生, 学校別調査

## I 問題設定

### I-1 はじめに

筆者は、これまで過去5年間、乳児保育を担当してきた。大学で授業をしている中で、学生たちの乳児に対するイメージは「かわいい」「愛らしい」「よく泣く」「お世話をしてあげないといけない存在」のような乳児の表面的な部分しかイメージしていない場合が多いのではないかと感じてきた。また、学生にとって子育てや乳児の保育は、まだ体験したことの無い行為であり、情報から得たイメージが先行し、プラスイメージとマイナスイメージとが混在しているのではないかと予想される。そこで、学生の乳児に対するイメージの実態調査を行う事により、保育専攻学生の乳児イメージの特徴を明らかにする事とした。また、授業改善に生かすために「保育を学ぶ前の乳児のイメージ」と「乳児保育の授業の終盤 (13回目)」の乳児イメージの変化を明らかにすることも目的とした。

### I-2 乳児のイメージ研究

母親の乳幼児に対する態度や感情を測定する尺度は、いくつか開発・使用されてきた。例えば、花沢 (1992) 横田・花沢等 (1997) の研究や、その花沢の研究を元とした大概・太田 (1992) 柳原 (2012) 等の研究もある。その中で、花沢等 (1992, 1997) によると、出産直後 (産褥時期) の産婦を対象に、赤ちゃんに対して形容詞の当てはまる程度を評価させ、その結果を因子分析

して、各因子18項目からなる2因子（赤ちゃんへの接近と回避）を得て、対児感情評定尺度を構成した。

看護学生に対する妊婦疑似体験学習の効果を調査した大槻・太田（1992）によると、花沢の対児感情評定尺度を用いて、妊婦ジャケット着用前の各項目の接近得点の平均値が高い項目は、「やわらかい」2.8、「かわいらしい」2.7、「ほほえましい」「しあわせな」「たいせつな」がそれぞれ2.6、「あたたかい」2.5、「うれしい」2.3、「あかるい」2.2であり（0～3までの4件法の平均値）、その疑似体験前後ともに接近得点の高い項目は「やわらかい」「かわいらしい」「ほほえましい」「幸せな」「大切な」などであった。

次に、短期大学生の乳児に対するイメージを調査した柳原（2010）によると、保育所実習前後の3回調査した結果、接近項目では、「あたたかい」「ほほえましい」「ういういしい」「あかるい」「たのしい」の5項目が上位の5位以内の項目であった。回避項目では、3回の調査を通じて「よわよわしい」「むずかしい」の2項目が高かった事が示されている。このように、乳幼児に対する母性に関する研究においても、しばしば使われてきた尺度である。そのため、本研究においても、花沢の対児感情評定尺度を用いる事とした。

## II 方法

調査対象：下記表1のA～Dの保育者・小学校教員養成の大学・短大の学生計323名を調査対象とし、これらの学生は、いずれも筆者の乳児保育の授業の履修者である。

表1 調査対象

調査大学・短期大学	学年	対象人数
A大学（四年制）	2年	48名
B大学（四年制）	3年	75名
C短期大学	1年	111名
D短期大学（Cと同校）	2年	89名
	計	323名

アンケート実施時期：2015年7月（半期授業時間のうち、授業の終盤（13回目）の授業で実施）

アンケート内容：対児感情評定尺度（花沢,1992）を元にして、乳児に対するイメージを調査した。この尺度は、「あたたかい」「さみしい」等、さまざまな形容詞について乳児に対するイメージのあてはまる程度を回答するものであり、乳児を肯定し受容する方向の感情である愛着的な感情といえる接近感情の程度を表す接近項目と、乳児を否定し拒否する方向の感情である嫌悪的な感情といえる回避感情の程度を表す回避項目からなる。また、使われている言葉が、必ずしも現代では適切でないと考えられる形容詞1項目「うらめしい」（回避項目のうち1項目）を削除した。そこで、今回は、どの程度自分自身にあてはまるかについて「5. よくあてはまる」、「4. 少しあてはまる」、「3. どちらでもない」、「2. あまりあてはまらない」、「1. 全くあてはまらない」の5件法で回答を求めた（先行研究では4件法で示されていたが、本研究ではイメージの少しの差を知りたいと考え、5件法で実施した。）

また、学生の乳児に対するイメージの変化を調べるため、調査項目として、保育を学ぶ以前のイメージがどうであったかと、授業の終盤（13回目）にそれらがどうであるかをそれぞれ調査した。

### Ⅲ 結果と考察

#### (1) 学生たちが、保育を学ぶ以前に持っていた乳児のイメージ（全体）

まず表2として、保育を学ぶ以前に学生たちが乳児に対してどのようなイメージを持っていたかについて、平均得点を示す。表2において、特に平均得点が高い項目については、上位5項目をゴシック体で強調して示す。

表2 学習前に持っていた乳児のイメージ（全体）

	接近感情													回避感情													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	あたたかい	きれいな	うれしい	おもしろい	やわらかい	ほほえましい	しあわせな	うつくしい	たいせつな	すばらしい	たのしい	あかるい	かわいらしい	すてきな	さみしい	おそろしい	たいへんな	こわい	わがままな	うっとしい	きたない	かなしい	にくらしい	じやまな	じれったい	きらいな	めんどうくさい
A校 N=48	4.02	3.31	3.75	3.83	<b>4.09</b>	<b>4.17</b>	3.91	2.96	<b>4.28</b>	3.55	3.98	<b>4.13</b>	<b>4.36</b>	3.68	<b>2.53</b>	2.29	<b>3.98</b>	<b>2.44</b>	<b>3.47</b>	2.28	2.13	2.28	2.02	1.74	<b>2.47</b>	2.06	2.28
B校 N=75	4.04	3.05	3.85	3.83	<b>4.11</b>	<b>4.40</b>	3.97	2.99	<b>4.35</b>	3.60	<b>4.04</b>	4.01	<b>4.49</b>	3.88	<b>2.32</b>	1.97	<b>3.87</b>	2.28	<b>3.64</b>	2.21	2.13	2.17	1.81	1.67	<b>2.51</b>	2.00	<b>2.36</b>
C校 N=111	<b>4.52</b>	3.31	3.98	3.99	<b>4.54</b>	<b>4.73</b>	4.34	3.35	<b>4.51</b>	4.02	4.25	4.36	<b>4.83</b>	4.11	2.16	1.97	<b>4.11</b>	<b>2.20</b>	<b>3.93</b>	2.06	1.80	2.00	1.67	1.42	<b>2.43</b>	1.56	2.17
D校 N=89	<b>4.36</b>	3.19	3.80	3.53	<b>4.45</b>	<b>4.58</b>	4.06	3.00	<b>4.53</b>	3.72	3.99	3.93	<b>4.80</b>	3.88	<b>2.40</b>	1.93	<b>4.17</b>	2.13	<b>3.68</b>	1.75	1.99	1.97	1.52	1.40	<b>2.39</b>	1.66	<b>2.20</b>
全体 N=323	<b>4.29</b>	3.22	3.86	3.80	<b>4.35</b>	<b>4.53</b>	4.11	3.11	<b>4.45</b>	3.77	4.09	4.13	<b>4.67</b>	3.93	<b>2.32</b>	2.01	<b>4.05</b>	<b>2.24</b>	<b>3.72</b>	2.04	1.98	2.07	1.71	1.52	<b>2.44</b>	1.77	<b>2.24</b>
	0.87	1.07	1.03	1.11	0.85	1.01	0.98	1.19	0.75	1.03	0.69	1.07	0.84	1.03	0.99	0.94	0.73	0.90	0.97	0.81	0.84	1.07	0.85	1.01	0.62	1.13	0.94

(注) 上段は平均得点を示し、下段は標準偏差を示す。

保育を学ぶ以前に持っていた乳児のイメージ全体（4校合計）の接近感情の平均得点が1番低いもので、3.11の「うつくしい」であり、1番高いものが4.67の「かわいらしい」である。そのため、学生たちの接近感情は、ほとんどが「よくあてはまる」「あてはまる」とイメージしていると考えられる。また、回避感情の平均得点の幅は、1.52～4.05であり、3点以上の項目が2項目「たいへんな」「わがままな」であり、それ以外は全て3点未満の平均得点だった。そのため、学生のほとんどは「全くあてはまらない」「あてはまらない」とイメージしている中、2項目だけが「よくあてはまる」「少しあてはまる」とイメージしている事がわかる。

次に、平均得点が高い上位5項目は、接近感情が「かわいらしい」「ほほえましい」「たいせつな」「やわらかい」「あたたかい」（4.67～4.29）回避感情は、「たいへんな」「わがままな」「じれったい」「さみしい」「こわい」「めんどうくさい」（4.05～2.24）であった。

#### (2) 授業の終盤（13回目）での乳児のイメージ

次に表3として、授業の終盤（13回目）に、学生たちが乳児に対してどのようなイメージを持っていたかについて、平均得点を示す。表3において、特に平均得点が高い項目については、上位5項目、ゴシック体で強調して示す。

表3 学習後の乳児のイメージ（全体）

	接近感情														回避感情												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
	あたたかい	きれいな	うれしい	おもしろい	やわらかい	ほほえましい	しあわせな	うつくしい	たいせつな	すばらしい	たのしい	あかるい	かわいらしい	すてきな	さみしい	おそろしい	たいへんな	こわい	わがままな	うっとしい	きたない	かなしい	にくらしい	じゃまな	じれったい	きらいな	めんどろくさい
A校 N=48	4.27	3.53	3.94	4.15	4.15	4.51	4.20	3.36	4.53	3.96	4.30	4.32	4.60	4.04	2.63	2.51	4.56	2.88	3.43	2.11	2.22	2.36	2.15	1.70	2.51	1.94	2.15
	0.78	1.07	1.03	1.29	0.86	0.70	0.84	1.30	0.82	1.14	0.58	1.10	0.71	1.12	0.91	0.95	0.68	1.18	0.77	0.98	0.74	1.13	0.80	1.06	0.61	0.99	0.94
B校 N=75	4.44	3.25	3.99	4.17	4.45	4.50	4.20	3.39	4.67	3.96	4.35	4.24	4.63	4.23	2.56	2.51	4.56	2.59	3.61	2.09	2.16	2.33	1.92	1.63	2.55	1.70	2.31
	0.87	1.21	1.10	1.33	0.93	0.77	1.04	1.35	0.79	1.09	0.78	1.07	0.83	1.06	1.04	1.05	0.62	1.02	1.03	0.86	0.81	1.09	0.85	0.99	0.80	1.15	0.95
C校 N=111	4.65	3.51	4.20	4.46	4.57	4.83	4.42	3.65	4.82	4.28	4.52	4.55	4.90	4.44	2.37	2.15	4.72	2.43	3.68	1.79	1.63	1.94	1.42	1.30	2.38	1.42	2.04
	0.68	1.18	1.03	1.27	0.79	0.54	0.76	1.34	0.72	1.21	0.49	0.95	0.78	0.90	0.99	0.97	0.45	0.77	0.94	0.58	0.63	1.25	0.66	0.77	0.30	1.10	0.83
D校 N=89	4.61	3.40	4.25	4.20	4.69	4.73	4.43	3.43	4.87	4.19	4.42	4.19	4.87	4.25	2.55	2.20	4.56	2.57	3.21	1.53	1.74	2.10	1.51	1.33	2.38	1.52	1.81
	0.57	1.10	0.90	1.15	0.74	0.69	0.89	1.25	0.68	1.10	0.56	0.78	0.76	0.89	0.96	1.11	0.45	0.83	0.87	0.70	0.75	1.08	0.90	0.98	0.40	0.90	0.88
全体 N=323	4.53	3.42	4.13	4.28	4.51	4.68	4.34	3.48	4.75	4.13	4.42	4.34	4.78	4.28	2.50	2.30	4.61	2.57	3.50	1.84	1.87	2.14	1.67	1.44	2.44	1.59	2.05
	0.73	1.15	1.02	1.27	0.83	0.67	0.89	1.32	0.76	1.16	0.61	0.99	0.79	1.00	0.99	1.04	0.55	0.96	0.93	0.77	0.73	1.15	0.81	0.95	0.54	1.06	0.90

(注)上段は平均得点を示し、下段は標準偏差を示す。

授業の終盤（13回目）に持っていた乳児のイメージ全体（4校合計）の接近感情の平均点が1番低いもので、3.42の「きれいな」であり、1番高いものが4.78の「かわいらしい」である。そのため、学生たちの接近感情は、ほとんどが「よくあてはまる」とイメージしていると考えられる。また、回避感情の平均得点の幅は、1.44～4.65であり、3点以上の項目が2項目「たいへんな」「わがままな」であり、それ以外は全て3点未満の平均得点だった。そのため、学生のほとんどは「全くあてはまらない」「あてはまらない」とイメージしている中、2項目だけが「よくあてはまる」「少しあてはまる」とイメージしている事がわかる。

次に、平均得点が高い上位5項目は、接近感情が「かわいらしい」「たいせつな」「ほほえましい」「あたたかい」「やわらかい」（4.78～4.51）回避感情は、「たいへんな」「わがままな」「こわい」「さみしい」「じれったい」（4.61～2.24）であった。

### （3）保育を学ぶ以前と授業13回目の接近感情の変化

保育を学ぶ以前と授業の終盤（13回目）の接近感情の平均得点の差（現在-以前）では、接近感情の全体（4校合計）の平均は、以前と現在を比較すると、現在の平均点は上がっている。プラスのイメージがより豊かになっていると考えられる。なお、「おもしろい」「うつくしい」「すばらしい」「すてきな」「たのしい」（0.33～0.47）5つが特に上昇率が高い。他方、「やわらかい」「ほほえましい」「かわいらしい」の平均点の変化は大きくはないが、0.1ポイント程度は上昇している。

表4 以前と現在の接近感情の平均得点の差（現在-以前）

接近感情	全体	A校	B校	C校	D校
あたたかい	0.24	0.25	0.40	0.13	0.24
きれいな	0.21	0.22	0.20	0.20	0.21
うれしい	0.26	0.19	0.14	0.22	0.45
おもしろい	0.47	0.31	0.35	0.47	0.67
やわらかい	0.16	0.06	0.35	0.03	0.23
ほほえましい	0.15	0.34	0.10	0.09	0.15
しあわせな	0.22	0.28	0.23	0.08	0.37
うつくしい	0.37	0.40	0.40	0.30	0.43
たいせつな	0.31	0.25	0.32	0.30	0.33
すばらしい	0.36	0.40	0.36	0.26	0.48
たのしい	0.33	0.32	0.31	0.28	0.43
あかるい	0.22	0.19	0.23	0.19	0.26
かわいらしい	0.11	0.23	0.14	0.07	0.07
すてきな	0.35	0.36	0.35	0.33	0.37

(4) 保育を学ぶ以前と授業の終盤(13回目)の回避感情の変化

以前と現在の回避感情の平均得点の差(現在-以前)では、回避感情の平均点が上がった項目は、「たいへんな」「こわい」「さみしい」回避感情の平均点が下がったのは「わがままな」、回避感情が下がった項目は、「わがままな」「うっとしい」「めんどくさい」「きらいな」「きたない」であり、逆に上がったのは、「たいへんな」「こわい」「おそろしい」「さみしい」である。回避感情が下がった要因としては、乳児保育を学ぶ事によって乳児の発達や特徴についての理解が深まったからであると考えられる。逆に上がった要因としては、それらの理解が深まる事によって、責任を持って接しなければならぬ大変さや怖さがわかったからではないかと考えられる。

表5 以前と現在の回避感情の平均得点の差（現在-以前）

回避感情	全体	A校	B校	C校	D校
さみしい	0.19	0.09	0.24	0.21	0.15
おそろしい	0.29	0.22	0.53	0.18	0.27
たいへんな	0.56	0.58	0.69	0.61	0.39
こわい	0.34	0.44	0.31	0.22	0.45
わがままな	-0.23	-0.04	-0.03	-0.25	-0.47
うっとしい	-0.21	-0.17	-0.12	-0.28	-0.22
きたない	-0.11	0.09	0.03	-0.17	-0.25
かなしい	0.07	0.09	0.16	-0.06	0.14
にくらしい	-0.04	0.13	0.11	-0.25	-0.01
じゃまな	-0.08	-0.05	-0.04	-0.12	-0.07
じれったい	0.00	0.04	0.04	-0.05	-0.02
きらいな	-0.18	-0.13	-0.30	-0.14	-0.14
めんどくさい	-0.19	-0.13	-0.05	-0.14	-0.40

(5) 接近感情の平均得点の上位5項目(学校別比較)

表6 接近感情の平均得点の上位5項目(学校別比較)

項目	全体 N=323	項目	A校 N=48	項目	B校 N=75	項目	C校 N=111	項目	D校 N=89
かわいらしい	4.78	かわいらしい	4.60	たいせつな	4.67	かわいらしい	4.90	たいせつな	4.87
たいせつな	4.75	たいせつな	4.53	かわいらしい	4.63	ほほえましい	4.83	かわいらしい	4.87
ほほえましい	4.68	ほほえましい	4.51	やわらかい	4.45	たいせつな	4.82	ほほえましい	4.73
あたたかい	4.53	あかるい	4.32	あたたかい	4.44	あたたかい	4.65	やわらかい	4.69
やわらかい	4.51	たのしい	4.30	たのしい	4.35	やわらかい	4.57	あたたかい	4.61
								しあわせな	4.43

各校の接近感情については、「ほほえましい」「たいせつな」「かわいらしい」「やわらかい」(順不同)の4項目は、4校の上位5位に全て入っていた項目である。接近感情の平均得点の上位5項目(学校別比較)平均点はA校4.60、B校4.67、C校4.90、D校4.87である。接近感情の項目には、学校の間で違いが見られる。A校には、明るいが入っている。またD校には、幸せなという項目が入っている。

(6) 回避感情の平均得点の上位5項目(学校別比較)

表7 回避感情の平均得点の上位5項目(学校別比較)

項目	全体 N=323	項目	A校 N=48	項目	B校 N=75	項目	C校 N=111	項目	D校 N=89
たいへんな	4.61	たいへんな	4.56	たいへんな	4.56	たいへんな	4.72	たいへんな	4.56
わがままな	3.50	わがままな	3.43	わがままな	3.61	わがままな	3.68	わがままな	3.21
こわい	2.57	こわい	2.88	こわい	2.59	こわい	2.43	こわい	2.57
さみしい	2.50	さみしい	2.63	さみしい	2.56	じれったい	2.38	さみしい	2.55
じれったい	2.44	おそろしい	2.51	じれったい	2.55	さみしい	2.37	じれったい	2.38
		じれったい	2.51						

回避感情については、「さみしい」「たいへんな」「わがままな」「じれったい」「めんどくさい」(順不同)の5項目は、4校の上位5位に全て入っていた項目である。学年が変わっても学校が変わっても、回避感情の上位5項目は変わらず、順位もほぼ同じである。

回避感情の平均得点の上位5項目(学校別比較)では、授業の終盤(13回目)であっても、保育を学ぶ前と同項目であることから、根強く個人の感情として持ち続けるものであることが明らかになった。しかしながら、授業を受けることによって、一部の項目では平均点が下がるものも見られた。

#### IV 結果をふまえた今後の方向性の提案

今回の調査をする前、筆者は学生たちの乳児に対するイメージは、表面的な部分しかイメージしていない場合が多いのではないかと思っていたが、プラスイメージとマイナスイメージと

が混在している実情が伺えた。保育専攻学生は、入学前から乳児とのかかわりの体験が必ずしも多いとは言えないが、乳児に対する接近感情が元々高いことが推測される。他方、回避感情についても、「さみしい」「たいへんな」「わがままな」「じれったい」「めんどくさい」などの感情も授業前後で変わらず持ち続けていることがわかった。このように、今回調査したA～Dの大学・短大生は保育専攻学生であるが、乳児に対するイメージは広がりを持ちつつも、ステレオタイプの乳児に対する感情を抱えていることが伺える。

大学・短大の授業や保育実習を経験する中で、保育の現場や乳児のイメージについて、リアリティーショックを受ける学生も少なからず存在する。実際の保育の現場や乳児を理解する上でも、ボランティア・観察・見学・実習等の体験の意義は大きいと考える。さらに、乳児を持つ母親から育児体験等の実際の話や伺う機会を乳児保育の授業の中に盛り込む事ができれば、乳児保育の授業内容がより深くなり、保育現場で就職する際に多様な視点を持って現場で働く事ができるのではないかと考える。また、保育現場で乳児と触れあう中で、乳児のイメージに広がりが出てくる事にも繋がる（接近感情のみならず、回避感情を持つ事に繋がる可能性もある。）と考えられる。さらに、実際に乳児と触れ合う中で、幅のある援助に繋がっていくであろう。保育専攻学生が大学・短大を卒業し、就職1年目で乳児を担当する事となった場合、大きなリアリティーショックを感じる事に繋がらないような授業内容が望まれる。養成校と保育現場との接続期の連携は、リアリティーショックを軽減し、継続して勤務する事にも繋がるのではないかと考える。このような背景の下で、より多くの学生たちが乳児に対して積極的に働きかけ、そのような働きかけの中から乳児に対する共感的な態度を獲得していくような指導方法を探ることが必要である。また、子どもを生み育てやすい社会にしていく為にも、保育者養成に携わる教員・保育にかかわる人（保育者等）が、乳児保育の意義を伝えていく役割を担っていく事が責務であろう。今後は「保育者の乳児に対するイメージ」について調査を広げ、学生と保育者の「乳児に対するイメージ」を比較していきたい。

#### 引用文献・参考文献

- 1) 大槻優子・太田操(1999).「看護学生における妊婦疑似体験学習の効果(第2報)」。順天堂医療短期大学紀要. 10巻. pp.41-48.
- 2) 清水益治・千葉武夫・佐藤直之(2007).「保育士における自己教育力の分析—現在と学生時代の回想的比較—」。神戸女子大学文学部紀要. 40巻. pp.83-91.
- 3) 土居久子・大槻優子(1993).「母性看護意識の変容—花沢の対児感情評定尺度・母性理念質問紙を用いた実習前後の対児感情・母性意識の測定から—」。順天堂医療短期大学紀要4, pp.50-58.
- 3) 花沢成一(1992).母性心理学—第一版 東京:医学書院
- 4) 柳原利佳子(2010).「短期大学生の乳児に対するイメージの研究—保育所実習の効果の検討—」。全国保育士養成協議会第49回研究大会.